

第3回 原子力安全に関する社外評価委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成28年10月25日（火） 14時00分～16時00分
2. 開催場所：日本原子力発電(株) 本店会議室
3. 出席者：
＜委員＞ 北村委員長、梅津副委員長、竹田委員、大堀委員
＜対応者＞ 村松取締役社長、市村取締役副社長、和智常務取締役、石橋常務取締役

4. 要旨

(1) 自主的安全性向上の取り組み状況について

「原子力の自主的かつ継続的な安全性向上への取り組みについて」の前回社外評価委員会後の成果及び課題について説明を行い、委員からの評価、意見及び指導を受け、今後の取り組みに反映することとした。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 原子炉の設計、建設の技術的能力の維持は重要である。なかでも電力会社として原子炉の安全性を議論できる能力は、事業展開する中でも維持していくことが重要である。審査においても設計等の技術能力を維持向上することがポイントである。
- 安全文化の行動指針における安全懸念の提言は、安全文化の根幹に関わる重要な個所である。懸念に気付くトレーニングを行い気付きの機会を与えることと、リーダーシップの観点からも安全上の懸念を発言するための言い出す仕組みが重要である。
- 原子力発電所の安全解析はプラントメーカーに依存しているところが多いが、電力会社においても安全解析上の方向や挙動をユーザーとしての把握ができるようにしておくことが重要である。
- PRA活用は、CDF（炉心損傷頻度）だけで議論するのではなく、シーケンス及びシナリオを全部洗い出してリスクの3要素で考えることが重要である。
- 双方向コミュニケーションの情報発信の取り組みについては、地元の方々とのご理解を厚くすることを地道に今後とも継続していただきたい。また、コミュニケーションの場の規模の工夫や説明の仕方を工夫してリアリティーのある説明を行い、継続的に取り組んでいただきたい。

以上

原子力安全に関する社外評価委員会 委員名簿

	氏名	所属・役職等
委員長	北村 正晴	東北大学名誉教授、(株)テムス研究所所長
副委員長	梅津 光弘	慶應義塾大学商学部 准教授
委員	竹田 敏一	福井大学附属国際原子力工学研究所 原子炉物理学部門 特任教授
委員	大堀 道広	福井大学附属国際原子力工学研究所 原子力構造システム・廃止措置部門 准教授